

# 岐阜県子ども調査 調査結果

概要版



## 1 調査の概要

岐阜県に住む子どもを取り巻く環境が、子どもの日々の生活などどのように影響しているかを調べ、その結果を県の施策に活用することを目的として実施しました。

### 方法

岐阜県全域において、アンケート調査を郵送で実施しました。

ただし、高山市、関市、美濃加茂市、各務原市、山県市、御高町の6市町(以下「共同市町」)は、同様の調査を実施するため、各市町より調査データの提供を受けました。

### 対象

小学校1年生の保護者、小学校5年生と中学校2年生の保護者と子どもの各2,000人、計10,000人となりました(共同市町を除く、36市町村の住民基本台帳より無作為抽出)。

### 期間

平成30年9月7日～30日

### 回収数(回収率)

4,267(42.7%)

### 共同市町の調査データの取り扱い

本概要は、県及び共同市町の調査データを合算し、岐阜県全体データとしています。合算する共同市町のデータは、県の調査規模及び回収率から必要数を算出し無作為抽出しています。(集計データ数:5,498)

## 2 子どもの貧困率

### 岐阜県の子どもの貧困率・・・7.2%

### 貧困率について

本調査では、国民生活基礎調査と同様に、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合として算出しています。

### 算出方法

「岐阜県子ども調査」の保護者調査票の世帯人員、世帯収入(手取り額)から1人当たりの収入を計算し、国民生活基礎調査の貧困線(122万円)\*により、算出しました。なお、岐阜県子ども調査独自の貧困線は、国民生活基礎調査による貧困線と同額でした。

\*貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取りの収入)を世帯人員の平方根で割って算出した所得)の中央値の半分の額をいい、この算出方法はOECD(経済協力開発機構)の作成基準に基づいています。

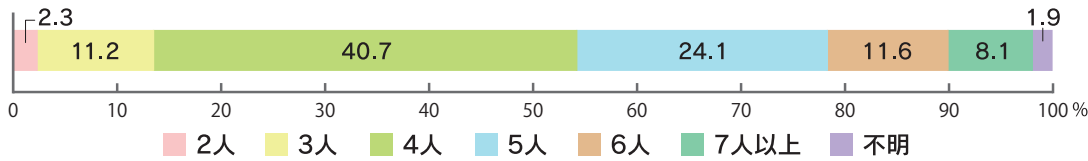
## 3 所得による分類

本調査では、貧困線をもとに、貧困と非貧困に区分しました。さらに、非貧困を等価可処分所得の額に応じて3つに区分しました。

	区分	定義
↓ 貧困線	所得区分Ⅰ	122万円(貧困線)未満
	所得区分Ⅱ	183万円(Ⅰの1.5倍)未満
	所得区分Ⅲ	244万円(Ⅰの2倍)未満
↑ 中央値	所得区分Ⅳ	244万円(Ⅰの2倍)以上

## 4 世帯人数

世帯人数は「4人」(40.7%)の割合が最も高く、次に「5人」(24.1%)が高くなっています。なお、ひとり親世帯の割合は7.3%となっています。

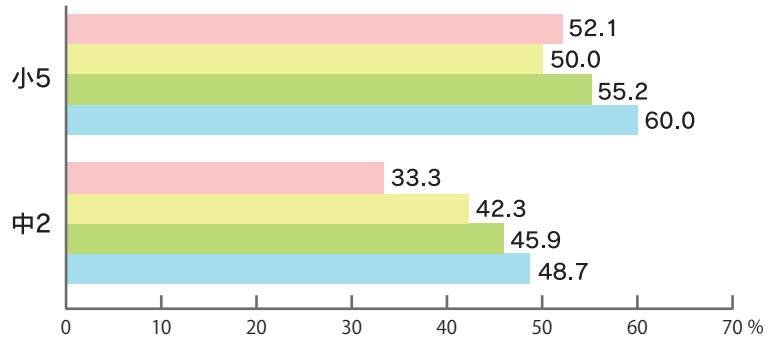


## 5 学習

### (1) 学校の授業について【子ども(小5・中2)】

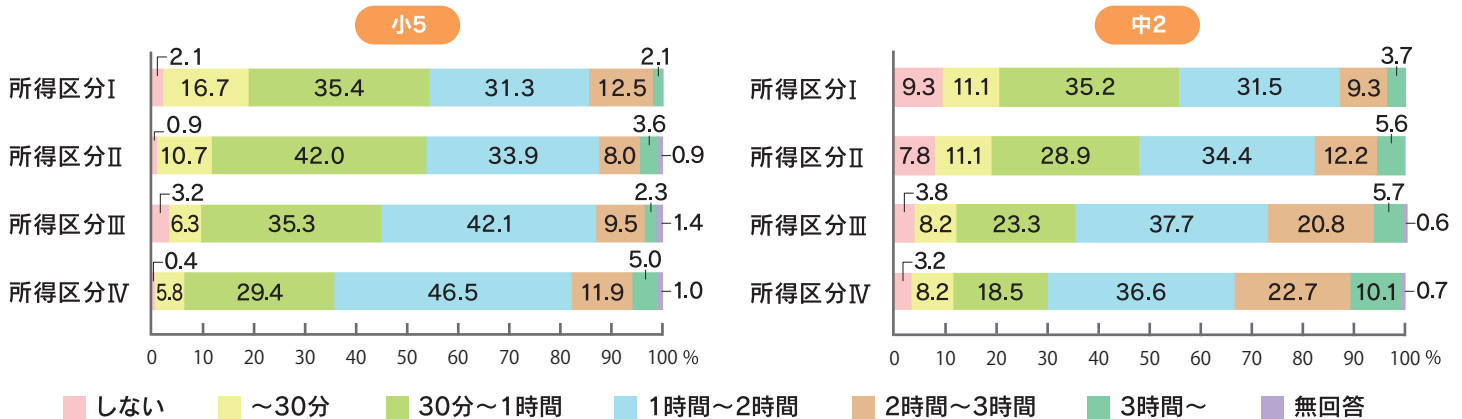
所得区分によって、授業の「わかる」の割合に差がみられます。特に中2において保護者の所得が低くなるにつれて、「わかる」の割合が低くなっています。

■ 所得区分I ■ 所得区分II  
■ 所得区分III ■ 所得区分IV



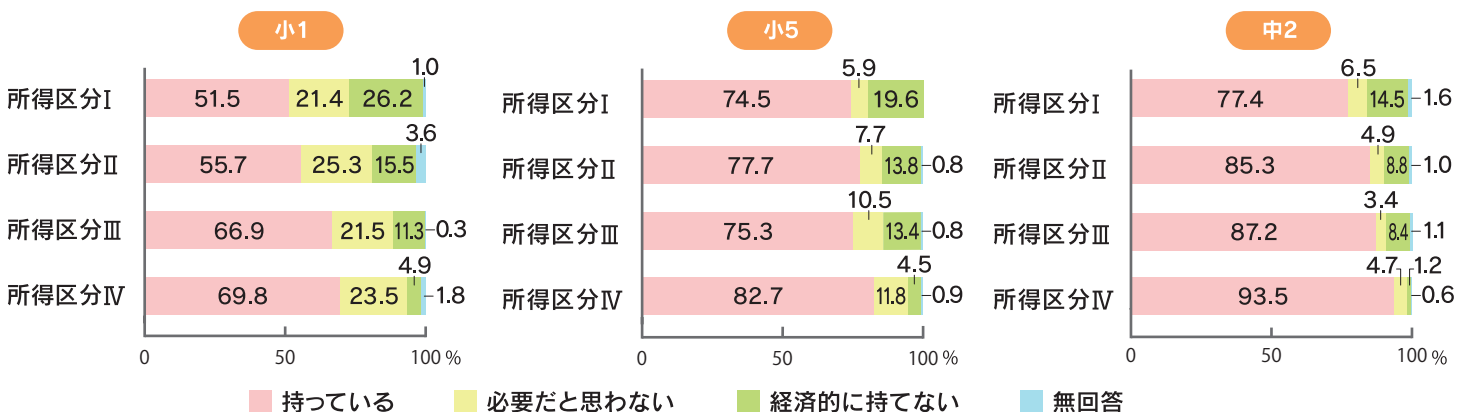
### (2) 学校以外での平日の学習時間について【子ども(小5・中2)】

所得区分によって、平日の学習時間に差が見られ、所得区分IVにおいては、小5:63.4%、中2:69.4%が「1時間以上」となっています。



### (3) 学習する環境(子ども部屋)について【保護者(小1・小5・中2)】

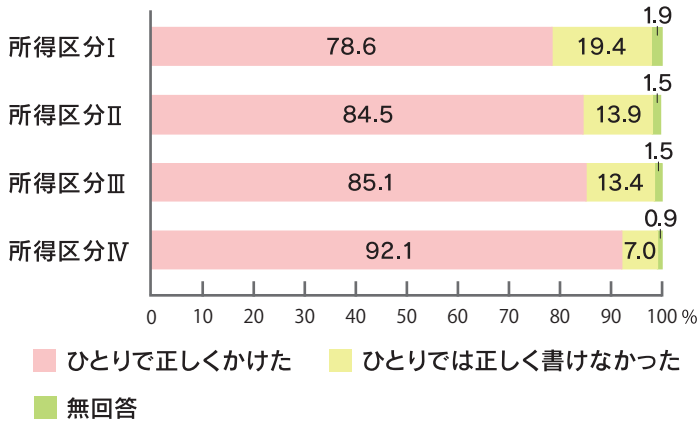
所得区分によって、子ども部屋を「経済的に持てない」の割合に差が見られ、特に所得区分Iにおいて小1:26.2%、小5:19.6%、中2:14.5%となっています。



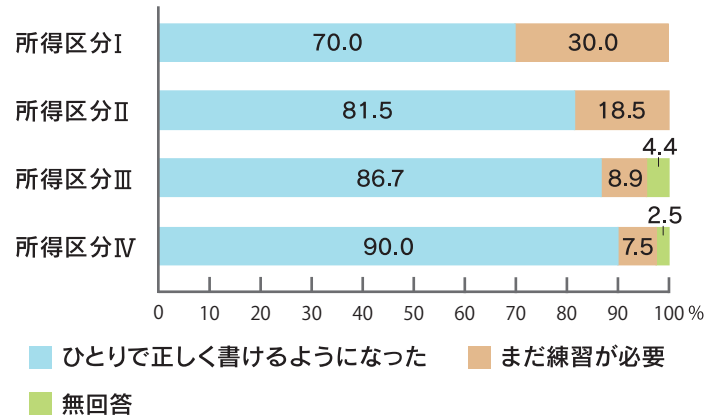
#### (4) 小学校入学時点でひらがなが書けたか【保護者(小1)】

小学校入学時点でひらがなを書けない割合は所得区分が低くなるごとに高くなり、所得区分Iにおいて19.4%となっています。また、入学時点で書けない子どもの現在の状況については、「正しく書けるようになった」が「まだ練習が必要」を大きく上回っています。なお、「まだ練習が必要」の割合は所得が低いほど高く、所得区分Iにおいては30.0%となっています。

小学校入学時点



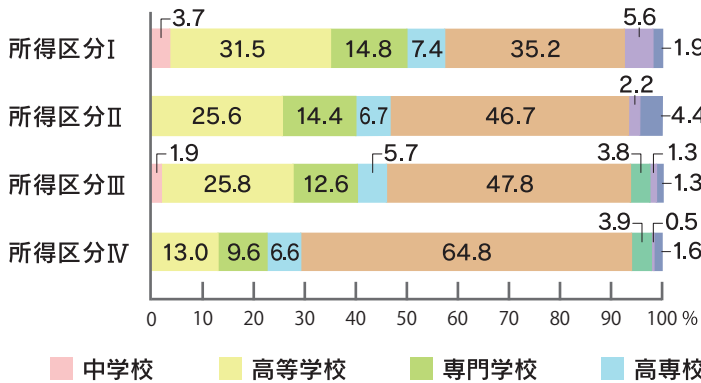
現在(9月)



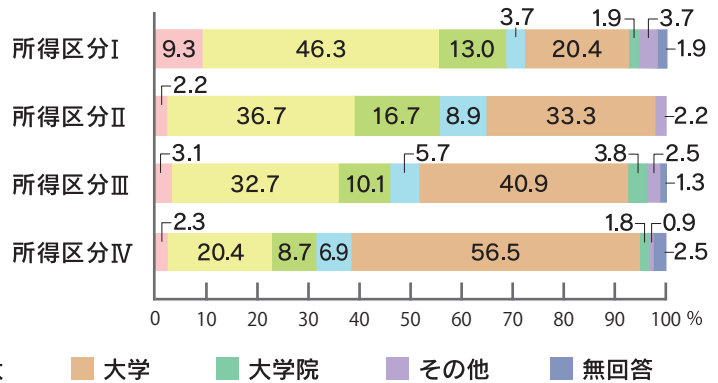
#### (5) 将来どの学校まで行きたいか【子ども(中2)】

「理想」の進学先ではいずれの所得区分においても「大学」の割合が最も高くなっています。「現実」に行くことになると思う進学先では、所得が低くなると、「大学」の割合が低くなり、「高校」が高くなっています。

理想



現実

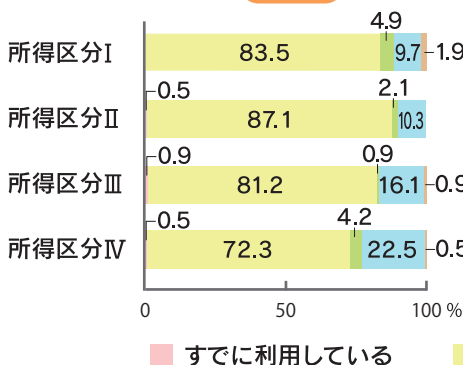


#### (6) 子どもの学習支援(無料の学習支援教室)の利用意向について【保護者(小1・小5・中2)】

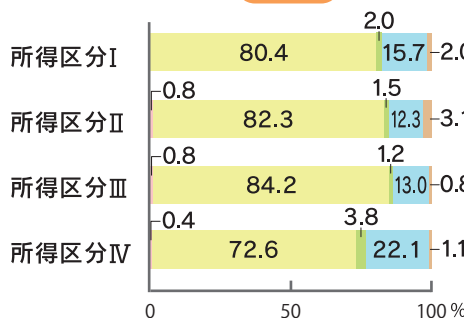
小1・小5・中2のいずれも「利用したい」の割合がどの所得区分においても高くなっています。



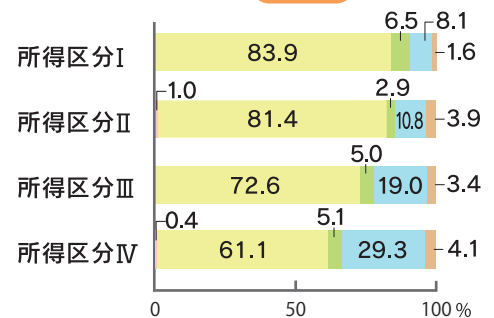
小1



小5



中2



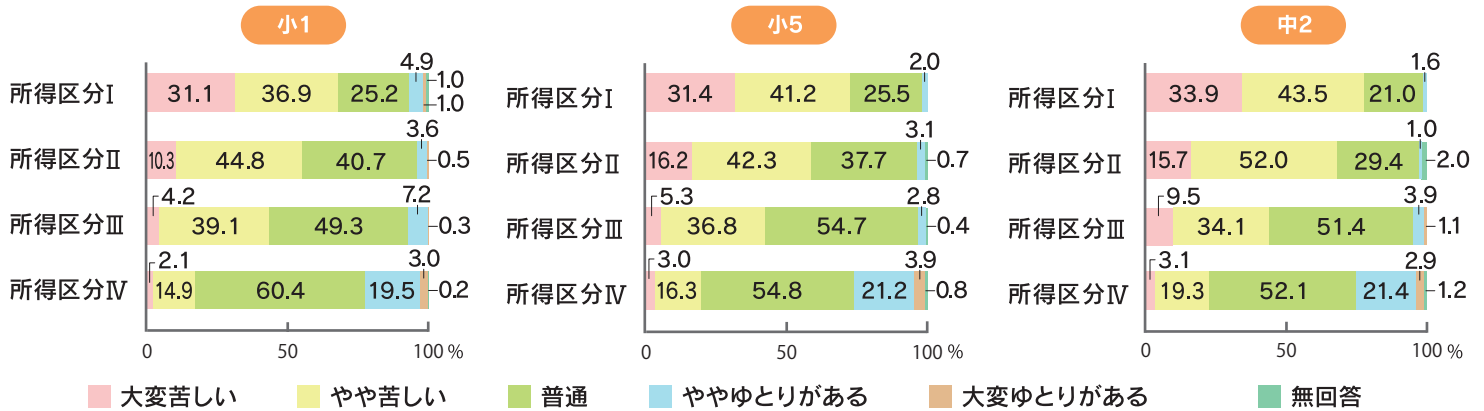
すでに利用している 利用したい 利用したくない 必要だと思わない 無回答

# 6 生活



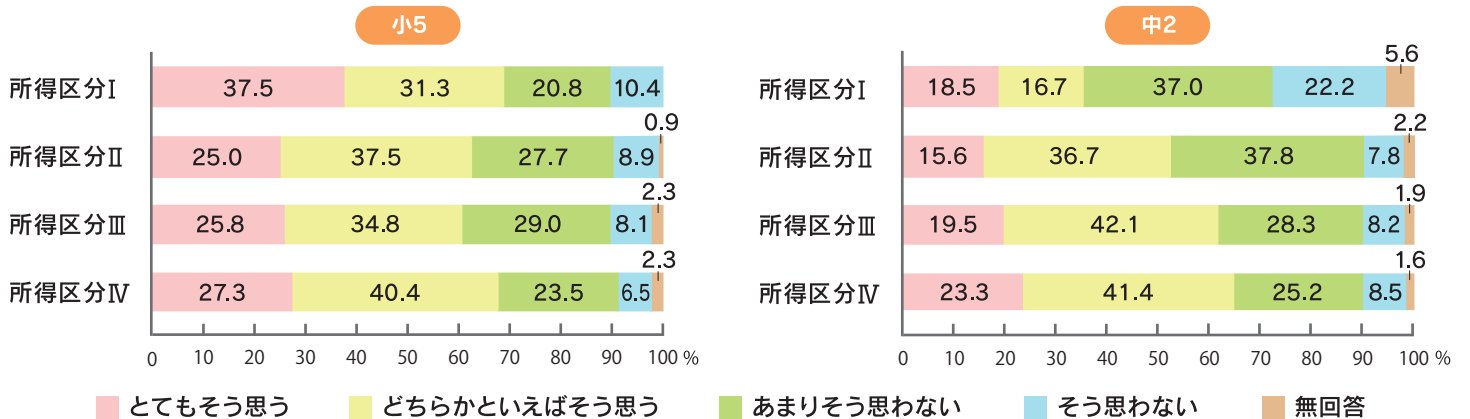
## (1) 現在の暮らしの状況について【保護者(小1・小5・中2)】

小1・小5・中2のいずれも所得区分Iにおいて「大変苦しい」(小1:31.1%、小5:31.4%、中2:33.9%)が最も高くなっています。



## (2) 現在の気持ち(自分は価値のある人間だと思う)について【子ども(小5・中2)】

中2では小5よりも、「とてもそう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が全体的に低くなっています。また、中2においては所得が低いほど「あまりそう思わない」、「そう思わない」が高くなっています。



## (3) 子ども食堂の利用意向について【保護者(小1・小5・中2)】

子ども食堂については、小1において「利用したい」の割合が高くなっています。特に小1の所得区分Iにおいては55.3%が利用を希望しています。

